

## きれいごとばかりじゃないけど、お互い様なんです

(釜石市 震災当時小学4年 女子)

最近、復興を支援してくれる人たちに絵を描けと言われて、流されていく人と家を描いたら、「描くな」って言われました。で、少しイライラしています。私は、「復興と言っても、きれいごとばかりじゃない」って、そう思うのです。

震災から2年以上たった今、ガレキとかを引き取る話の中で、「こっちに持って来られると放射線が・・・」とか言っていますよね。でもそれって、そっちの人もこの体験をしてもらえれば分かると思うんですよ。

災害はどこにでもあると思います。こっちだけにあるのではなくて、そっちの方にも絶対来ると思う。お互い様なんです。

そっちが大変な時にはこっちも助けるんだってことを分かってもらいたいのです。



## やっぱりみんな倒れてしまった

～物が散乱して前に進めず～

（石巻市 50代 男性）

「ガ、ガ、ガ」ときて目がさめて、「ああ、これがいわゆる宮城沖地震なのかな」って、立ちながら感じていました。

部屋が2階に4部屋ほどあって、私は道路側の階段から一番遠い部屋で寝ていました。そのとき女房はもう朝起きていて、1階で朝ご飯のしたくをしていましたので、無事かどうか確かめに行こうと思いました。

ようやくフスマをあけて部屋から脱出しましたが、家の中のありとあらゆるものが倒れたり、落ちたりしていて、足の踏み場もないくらいでしたので、なかなか前に進めないのです。

で、2階から下の茶の間に行くまでに、10分はかかりました。

ちゃんと地震が来るとわかっていたら、いろんなものを留めていたと思うんですけども、それをやっていなかったものだから、やっぱりみんな倒れてしまったわけです。

ただ、茶の間の大きな食器棚だけは、L字金具を買ってきて何力所か留めていたので、倒れませんでした。やってよかったなと思いました。



## 6年の僕たちが1年生を誘導

～義足の友達はおんぶして～

(釜石市 震災当時小学6年 男子)

友達の家でゲームをして遊んでいる時に地震が起きました。ぼくらがいたのは3階の部屋でしたが、2階に下りてから、2階で遊んでいた友達の弟(小学校1年生)たちに「こっちへ来い!」と言って、本棚とか倒れてくるものがないところに集まって、揺れがおさまるのを待ちました。みんなで15人ぐらいいいたと思います。

避難をしようとする時に、1年生の子たちは避難場所とかが分かっていなかったのので、6年生のぼくたちが1年生たちを誘導するみたいな感じで、避難場所の小学校まで連れて行きました。

それから、友達の中に義足の子っていて、あまり早く走れなくて遅れてしまうので、仲間でその子をおんぶして逃げました。

1年生たちは、おびえていたというか、しゃべれないというか、意外に静かだったのを覚えています。



## まず老人会の会長さんをひっぱり出し

～地域の役割のある人から声かけ～

（神戸市 60代 男性）

私は自治会長だったので、地震の前の晩は夜中の1時半過ぎまで、なれない手つきでワープロでまちづくりに関する資料づくりをしていました。

ちょうど寝入りばなに、グラグラと大きな地震が起きたのです。表に出ると、となり町の空に真っ赤な火の手があがっていたので、「これはあかん」と思いました。そのあたりには、昔ながらのアーケードにつらなる市場があったので、そこに火が入ったら、アーケードに火が走ってすぐに我々の町に来るだろうと思ったのです。

自治会長の私だけでは、どうすることもできないと思って、地域の老人会の会長さんや、婦人会の会長さんとかに声をかけました。その人たちがそれぞれ自分の担当で動いてくれるだろうと思って声をかけたのですが、期待どおりしっかり行動されていました。

自分は何度か火災を経験し、火の怖さを十分知っていたので、「早く、火に近いところから助け出さなければ」と思っていました。埋もれている人の掌握にと、町を二回りしたところには、すぐそこに火が来ていました。ほんとうに火の勢いは速かったんです。





## 家がゆがんで、サッシ戸飛び出す

石巻市 70代 男性

朝の7時15分ぐらいに、2度目の地震が来たんです。イスに腰掛けていたら、からだがボン、ボン、ボンとはずみました。上にはずんだ感じでした。

みると、うちの雨戸がわりのガラス戸が、10cmか15cmぐらいバッフ、バッフとあいたかと思うと、あらら、あらら、といううちに、バシヤ、バシヤ、バシヤという音がして、ガラス戸がはずれて外側に倒れました。

それらの戸は、木の枠ではなく、サッシの枠でした。家がゆがんでサッシの戸が外に飛び出すなんて、信じてもらえないかもしれませんが、ほんとうのことなんです。



# 一日前プロジェクト みんなでやってみよう！

ー簡単な手順を紹介しますー

まず、過去の自然災害（地震、水害等）の中から対象を選ぶ



その災害の被災経験者や災害対応経験者に声をかける



みんなが集う場所と時間を設定する ※所用時間は約2時間



なごやかな雰囲気の中で、当時を思い出しながら、  
体験したり感じたことを話し合ってもらおう ※話し手は、2人～4人が適当



「教訓」や「知恵」につながる部分を拾い出し、タイトルをつける



テープ起しなどを基に、拾い出した部分を「物語」にする

※物語は、300字～500字程度で、できるだけ語り口を残して編集

※物語の情景を表すイラストや写真等を添えると効果的



作成した「物語」を地域や職場のみんなに読んでもらう

気づき

共感

反省